



1 自己評価

I 評価結果

(1) 確かな学力の育成

①思考力・表現力の育成を目指した授業改善

研究の3年ビジョンの最終年度を推進した。年間をとおして研究の視点に沿った問題解決型授業を展開。特に国語科は外部講師を継続招聘して研究を深め、当初の予定どおり研究発表会を開催し物語文・説明文の授業を全学級公開した。授業改善の内容は研究紀要にまとめた。

②基礎的・基本的な知識・技能の習得

朝学習10分間を漢字、計算、読書などの時間として計画的に実施。漢字、計算の定着率は向上している。弱点克服の時間としても活用した。

③家庭学習の定着

宿題は概ね定着。自主学習については、家庭学習の手引きを作成し、全児童に配付している。指導を継続していくことが大切である。

(2) 豊かな心とたくましさの育成

①誰とでも仲良くできる児童の育成

学校生活の中で分け隔てなく誰とでも学習や遊びなどの活動をするという意識は高まってきた。しかし、活動中の気持ちのすれ違いなどもあるため、アンケート結果ではなかよくできなかったという児童もいる。

②自ら進んであいさつすることのできる児童の育成

児童アンケートでは約7.5割が自ら行っていると回答した。朝は自ら行えるが、学校生活の中での来客等へは十分とはいえない。

③読書活動の推進

家庭での「ふれあい読書」は伝統となつている。読書量も年平均60冊を超えている。

④体力づくりの推進

各学年、体育授業の準備運動として、投、跳などの弱点に年間をとおして取り組んだ。

(3) 開かれた学校づくりの推進

①学校支援地域本部事業の充実

年間計画を立て組織的に推進し、年間55日間、延べ62支援活動（登下校の安全見守りを除く）を実施することができた。登下校の安全見守り活動は毎日実施していただいた。

②家庭・地域との連携（教育方針の共有化）

地区懇談会、地域来校者、PTA総会等々でプレゼンテーションを実施（年間11回）することができた。学校・学年・学級等々の各種たよりを計画的に発行した。

II 分析・改善方策

(1) 確かな学力の育成

授業改善は次年度も引き続き実施。今年度までの3年間の蓄積をもとに、新たに3年計画を立て問題解決型授業を改善しながら推進していくことによって、思考力・表現力の育成の充実を目指す。外部講師も継続して招聘。

基礎的・基本的な知識・技能の習得については、朝学習を5分間延長し1.5分間とする。年間計画を立て内容の習熟を目指す。弱点克服の時間としても活用する。

(2) 豊かな心とたくましさの育成

他者との共生の基盤である人間関係づくりに視点をあてた心の育成を課題として取り組む。誰とでも共に活動できること、自ら進んで行うあいさつは人間関係づくりの中心的な取り組みとして推進する。

また、家庭での「ふれあい読書」の啓発を引き続き行い読書に親しませる。読書量だけでなく質に対する啓発を行う。

体力づくりについては、新体力テストを1学期に行い結果を分析し、体力づくりに取り組む。

(3) 開かれた学校づくり

学校支援地域本部事業は、今年度同様年間計画を作成し、ニーズに合わせて組織的に取り組み、教育活動の充実を図る。

教育方針を含め、学校情報の発信を計画的に行っていく。

2 学校関係者評価委員会

竹内 佑宜（津山市観光協会会長・町内会長）	小原 龍二（元校長・町内会長）
長江 真理子（NPO津山子ども広場代表）	安田 英祥（元PTA会長）
武本 義徳（本校保護者・PTA会長）	

3 学校関係者評価

定着の3年ビジョンの最終年度として、学校経営計画に掲げた上記の内容が計画的組織的に推進され成果も表れている。成果と課題をはっきりさせて、来年度からの充実の3年ビジョンに反映することは大切なことである。視点を明確にして授業や生徒指導の指導改善に取り組み、学校教育目標に迫る子どもたちに育てていく方針でよい。公共の精神や礼儀ある態度は共生社会に生きる人として育成していくことが大切なことであるので、引き続き指導の重点として取り組んでいくことが重要である。開かれた学校づくりについても、学校支援地域本部の取り組みで地域の中の学校として地域ぐるみで子どもを育てることが充実してきている。

次年度からの充実の3年ビジョンも組織的に質の高い教育活動を継続していくことが大切である。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

来年度は充実の3年ビジョンの1年次。充実した質の高い教育活動を展開して確実な定着を図ることを目標とし、児童の豊かな成長を育む。

1 確かな学力の育成

①思考力、表現力、活用力の育成

- ・全教職員で授業改善に取り組み共通実践を進める。今年度までの定着の3年ビジョンの研究実践の上に、思考力・表現力・活用力の育成を観点に、既習事項を活用し、自分の考えを持ち、集団思考し、まとめるという授業づくり（問題解決型授業）を充実する。
- ・授業の理論と実践を深めるため、外部講師を継続して招聘する。
- ・国語科（物語文・説明文）の問題解決型の授業づくりをまとめた研究冊子を作成して、今後の指導に生かす。

②基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ・特設タイムの朝学習15分間を習熟の時間、読書の時間等とし、学校全体で共通実践する。漢字、計算は定期的に確認テストを実施し、客観的に定着を確認する。
- ・今年度同様、読書の質量を充実させるため、年平均60冊の読破と本校の伝統である家庭での「ふれあい読書」の奨励、「お薦めの本」の提示などをおして推進する。読書活動は豊かな心の育成の観点からも推進する。

③家庭学習の習慣

- ・学校全体での共通理解を図り、意欲づけや学習内容を提示し指導するとともに、定着の図れていない児童への個別の支援を行い、確実な定着を目指す。

2 豊かな心とたくましさの育成

①誰とでも仲良くできる集団づくり

- ・礼儀ある態度、相手の立場に立った言動、自ら行うあいさつを育んでいく。

②集団規律の定着

- ・ろうか歩行、黙って掃除をはじめ、チャイムの合図、帽子・名札の着用、授業中や集団集合時の集団規律をとおして、規範意識を高揚する。

③たくましい心と体づくり

- ・学校生活の日常の活動（係・当番活動）をとおして、責任感、根気強さを養う。
- ・体力テストの結果を活かした取組を行う。特に、体育授業の充実、休憩時間を利用した運動の日常化に努める。

※上記①②③の充実を図るため道徳と学級活動では、特に、心情を深め、自主的、実践的な態度を育成することに重点をおき教育活動を展開する。

※①②については、「東っ子五つの約束」（4年目）を提示して推進するとともに、公共の精神と関連して育んでいく。

3 開かれた学校づくり

①学校支援地域本部事業の充実（6年次）

- ・学習支援・安全支援・環境支援の計画的組織的な運営を行い、充実している活動を推進していく。

②学校情報の発信

- ・学校公開日や地区懇談会、各種たより、ホームページで計画的に発信する。